

上級商業簿記		講義	准教授 岩下 尚義	
科目カテゴリー	会計ファイナンスコースの 選択必修科目 経営・経済コースの専門 選択科目 教職科目	科目ナンバリング	23012204 23012204 25320233	

1. 授業のねらい・概要

簿記は、対象となる業種により商業簿記と工業簿記に分かれる。商業簿記は商品売買業のように仕入れた商品をそのままの形で販売する業種が対象である。一方、工業簿記は製造業のように材料を仕入れ、加工し、製造した完成品を販売する業種が対象である。本授業では、商業簿記のうち「3級商業簿記」では学習範囲ではなかった2級特有の論点を中心に学修する。

本授業では、日商簿記2級の出題範囲の一部を学修する。日商簿記2級の出題範囲は、商業簿記と工業簿記がある。そのうち商業簿記の範囲は、本授業と前期開講の「中級商業簿記」を併せて履修することで学修することができる。さらに「工業簿記A」及び「工業簿記B」を併せて履修することで、日商簿記2級の全範囲を学修することができる。

2. 授業の進め方

講義形式で行う。授業は、インプット（講義）とアウトプット（演習）をバランスよく実施する。インプットは、テキストやその内容をまとめたレジュメなどを用いて説明する。アウトプットは、テキストに収録された問題集などを用いるため、必ずテキストを購入し毎回持参すること。本授業の第14回・第15回では、日商簿記2級商業簿記の過去問題レベルの問題を実際に解き、試験の傾向や対策も説明する。

3. 授業計画

1. ガイダンス ー上級商業簿記の範囲についてー 2. 外貨換算会計 3. 税効果会計 4. 収益認識基準 5. 財務諸表の作成 6. 帳簿の締め切り 7. 本支店会計 ①（仕訳） 8. 本支店会計 ②（内部取引、帳簿の締め切り）	9. 連結会計 ①（支配獲得日の連結） 10. 連結会計 ②（支配獲得日後1年後の連結） 11. 連結会計 ③（内部取引の相殺消去等） 12. 連結会計 ④（未実現利益の消去） 13. 製造業会計（商的工業簿記） 14. 日商2級商業簿記の解き方 ①（個別問題：応用） 15. 日商2級商業簿記の解き方 ②（総合問題：応用）
--	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回テキストの該当箇所を事前に読むことが望ましい。また、復習はテキストやレジュメを読むだけでなく、テキストの問題集を中心に問題を解くことが大切である。これらの準備学修には2時間程度が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

日商簿記検定2級（商業簿記）を合格するために必要な計算問題や仕訳について毎回簡単なミニテストを実施し解説する。試験実施の際は、解法手順やポイントなどを記載した模範解答を配布する。

6. 授業における学修の到達目標

日商簿記検定試験2級に合格するための商業簿記の「応用力」の習得を到達目標とする（前期開講の中級商業簿記を履修すると、日商簿記検定試験2級商業簿記の全範囲を習得できる）。

7. 成績評価の方法・基準

原則として、授業への取組み姿勢（50%）および定期試験の結果（50%）によって、評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは、滝澤ななみ著（2026）『2026 年度版 スッキリわかる 日商簿記 2 級 商業簿記』T A C 出版を使用する。
なお、本テキストは改訂される可能性があるが、授業では最新版を使用する。

9. 受講上の留意事項

本授業は「中級商業簿記」を履修していることを前提に行う。また、中級商業簿記よりも高度な内容となるため、最低限「3 級商業簿記」の履修または日商簿記 3 級程度の知識を有している必要がある。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、税理士としての実務経験も活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。